

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 環境創造センター
 所 管 課 環境共生課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		評価時までの進捗状況	内外の状況変化	成果の見通し	1次評価	2次評価			
1	環境回復	研究開発事業 (放射線計測)	モニタリング結果の評価・活用に関する研究	H27	R3	7,461	B	B	B		B	B	空間線量率の低減は進んでいるが、放射能に関する分かりやすい情報発信は引き続き必要である。 引き続き、データの公表の仕方や活用の方法について、検討する必要がある。	H27年度からの継続研究であることから、多くのデータや知見が得られているものと理解しています。学会での発表や、論文等による成果公表の手続きを経ることで、その内容がブラッシュアップされると共に、多くの専門家の目に触れる機会が増えると考えます。今後に期待します。
2	環境回復	研究開発事業 (除染・廃棄物)	廃棄物の処理における放射性物質等の適正管理手法の確立	H27	R3	8,106	B	A	B		B	B	模擬試験や焼却施設での実証試験、埋立処分場での測定結果から、市町村等へ情報還元できる成果が得られることを期待する。	H27年度からの継続研究であることから、多くのデータや知見が得られているものと理解しています。1件のセンター主催発表会での発表実績があるものの、学会会議や論文等による成果公表の手続きを経ることで、その内容がブラッシュアップされると共に、多くの専門家の目に触れる機会が増えると考えます。今後に期待します。
3	環境回復	研究開発事業 (除染・廃棄物)	廃棄物処理施設等における放射線影響についての安全性評価	H27	R3	14,999	B	A	B		B	B	処分場内の放射性Csの移行挙動の解明を進めることで、放射性Cs挙動シミュレーションが可能となることを期待する。	研究が着実に進み、成果も充実してきているように見える。成果の公表活動も活発で好感が持てる。創造センターの研究実施者が筆頭を務めての発表になるとなお良いでしょう。今後に期待します。
4	環境回復	研究開発事業 (環境創造)	猪苗代湖の水環境に関する研究	H27	R3	86,914	B	B	B		B	B	基礎データを継続的に収集し、水質予測モデルの構築や流入する水質汚濁負荷への対策の検討等、取組は進められているが、COD上昇等の水質悪化の総合的な原因解明や水質改善に向けた効果的な方法の提示等、引き続き、取り組むべき課題がある。	猪苗代湖の水質予測を行うために、気象、水文データ、湖水の流動特性の解析結果から、湖水流動モデルの改良と粒子追跡計算モデルを構築されている事は評価できる。一方、現地データによる検証、特に連続水質モニターや流量モニター等による河川からの負荷量の正確な把握を行う必要がある。

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所
 所 管 課 薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		評価時までの進捗状況	内外の状況変化	成果の見通し	1次評価	2次評価			
1	3-Ⅱ-(4)日常生活の安全と安心	食品安全対策	農産物等の残留農薬検査における妥当性評価と検査法の検討	R2	R4	1,707	A	A	A		A	A	検査可能な農産物及び農薬を拡大し、幅広く残留農薬検査を実施する体制整備を図ることが、更なる食の安全・安心の確保につながり、食品衛生行政に大きく寄与することができる。	検査実績のない農産物での検査法の妥当性が評価され、今後求められる検査の効率化に資する調査研究となっている。アボガドでは検体の特性が結果に系統的な偏りをもたらしていることが見出されており、スクリーニング法の開発において、対象となる試料等に関する選択基準や除外基準の策定が今年度の課題とされており、検査法の問題点が露呈しないような運用法の確立に向けて検討もなされていることも評価できる。

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ
 所 管 課 産業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		評価時までの進捗状況	内外の状況変化	成果の見通し	1次評価	2次評価			
1	地域資源を生かした産業振興に関する取り組み	科学技術調整会議共同研究事業	福島県産果実の品質・加工適性評価	1	3	680	A	B	A		A	A	科学的知見に基づいた加工法の提案により県産果実の利用や加工品開発が促進され、福島県オリジナル品種の普及や福島県産リンゴの加工品の高付加価値化が期待できる。	実験に基づいた科学的知見により加工法を提案して特産品の開発に結び付けたことは非常に評価すべきである。今後は、健康機能性の評価や加工の範囲を広げるなどに期待する。特に、シードル(アップルワイン)の加工は、いまは日本での市場の規模が小さい。しかし、アフターコロナに向け、これからの成長が望まれる分野であるので開発が期待される。
2	新産業集積と地域産業の振興	ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業	AI活用による軽量ロボット部材開発支援事業	2	3	3,854	B	B	A		B	B	県内企業との協力体制を構築し、当初の計画通り製造データの集積を行うことができた。製造データから機械的特性を予測するためのAI・機械学習の活用手法を確立し、強度予測を行うことができた。	少量多品種短納期であろう部品を製造するために重要なデータを蓄積し、開発(部品設計)コストと期間を圧縮することができる優れた成果と評価する。企業の未利用データの収集や活用等を機会として、特性予測の重要性を企業側に理解させ、(ハイテクプラザとの連携強化も含み)技術力・競争力を更に高めていくことが、今後必要と感じている。

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 福島県林業研究センター
 所 管 課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		評価時までの進捗状況	内外の状況変化	成果の見通し	1次評価	2次評価			
1	安全・安心を強化する取り組み	東日本大震災および原子力災害からの復興	海岸防災林の造林・管理技術に関する研究	令和元年度	令和5年度	214	B	B	B		B	B	順調に調査を行っており、今後も継続して行う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・生育状況の把握については十分達成されたと思いますが、生育不良の原因については、まだ不明な点が多いようです。 ・生育不良の原因が土壌にあるとの仮説で研究を進めておられると思いますが、今回の資料では土壌の還元性帯水層と生育の関係がないとの記載があります。仮説が間違っているとしたら、今後、どのような方針で調査を進める予定でしょうか？ ・侵入広葉樹としてヤシャブシがありますが、ヤシャブシは窒素固定能を持ち、緑化樹木としても使われてきました。ヤシャブシの位置づけをどのようにお考えでしょうか？
2	自然・環境と共生する農林水産業の推進	地球温暖化に対応するための技術確立	スギ大径木の強度特性等の把握と有効な活用方法の検討	平成30年度	令和4年度	1,636	C	B	B		B	B	不測の事態が発生したが、研究の順番を調整することにより進捗は回復できるため、来年度も継続されるべきである。ただし、コロナ対策の結果が遅れば、試験期間の延長も検討する必要がある。	地震の影響で装置が使えない事態に対応して、研究内容を調整して継続する判断は優れていると思います。コロナウイルス感染症の推移も考慮して研究計画の柔軟な運用が必要であると考えます。